

魅力ある公的施設・インフラの
大胆な公開・開放

内閣官房

これまでの取組 ①

○赤坂迎賓館等、観光ビジョンで掲げる施設で、観光資源として公開・開放の取組が進行。

○来訪者数は、迎賓館(赤坂・京都)166万人(累計H30.5時点)、皇居東御苑148万人(H29年度)と観光スポットとして定着。

施設名	これまでの主要な取組み	平成30年度の主要な取組み	来訪者数
赤坂迎賓館	一般公開の通年実施(有料)、ガーデンカフェ、民間への貸出	特別企画・イベント・夜間公開の実施、フォトガイドブックの制作、カフェ等の施設整備(迎賓館前の公園)	累計143万人 H29年度58万人
京都迎賓館	一般公開の通年実施(有料)、体験型参観、民間への貸出	特別企画・イベント・夜間公開の実施、スマホ用アプリの試験運用	累計23万人 H29年度13万人
首相官邸	特別見学実施(85回)	特別見学実施	H29年度2.6千人
皇居	一般参観の通年実施、乾通りの一般公開 6カ国語ガイドンス	一般参観の通年実施、乾通りの一般公開、参観ウェブサイトの6カ国語化	H29年11万人
皇居東御苑	一般公開の通年実施、6カ国語ガイドンス	三の丸尚蔵館増築、収蔵品公開拡充	H29年148万人
京都御所	一般公開の通年実施、6カ国語ガイドンス	参観ウェブサイトの6カ国語化、紫宸殿廻り回廊整備	H29年度70万人
仙洞御所・桂離宮・修学院離宮	通年で参観を実施、6カ国語ガイドンス	参観ウェブサイトの6カ国語化、桂離宮はガイドツアーの回数定員を拡充・外国語ツアーを拡充	H29年度 仙洞御所:5.4万人 桂離宮:5.5万人 修学院離宮:4.5万人
御料牧場	地元外も含めた見学会実施(年4回)	見学会の実施(年4回)と展示の充実	H29年度:40名×4回
鴨場	地元外からの見学会実施(年11回)	地元外からの見学会実施(年12回)	(埼玉・新浜) H29年度:30名×11回
信任状捧呈式に係る馬車列	原則1週間前の広報(可能な場合前倒し)	原則1週間前の広報(可能な場合前倒し)	—
造幣局本局	工場見学の当日受付、事前予約制を両方実施	スマホ等による外国語対応の充実	H29年度12万人
首都圏外郭放水路	見学会を拡充(土曜日2回増、定員倍増)、トイレ整備	見学会拡充に向けた社会実験を民間と連携して実施	H29年度2万人
大本営地下壕	見学できるための所要の整備を実施	見学できるための所要の整備を実施	※工事中
日本銀行	見学会の当日受付、多言語案内を充実	見学会の当日受付、多言語案内を充実	H29年度13万人 ¹

これまでの取組 ②

- 観光ビジョン施設以外でも公開・開放に取り組んでおり、全国で950超の施設が公開・開放。
- これらの中には、有料化など新しい公開・開放に取り組んでいる施設も出てきている。

～ニーズに応じた無料・有料のサービス提供～

JAXA筑波宇宙センター

- 無料の展示館(スペースドーム等)と施設の一部をガイド付きで見学する有料ツアーを設定し、幅広い来訪者ニーズをとらえている。

※年間来場者数は28万人(平成28年度)
※「きぼう」運用管制室、宇宙飛行士訓練施設等、料金500円



展示館「スペースドーム」



H-II ロケット実機展示



「きぼう」運用管制室



宇宙飛行士訓練施設

～地域と連携して観光資源として活用～

八ッ場ダム

- ダムが完成する前から、工事現場も含めダムの魅力を観光資源として活用した地域振興を進め、多くの観光客が来訪している。



「ダムカード」が人気



地元による特産品開発が多数



コンシェルジュによる現場見学



日々変化する工事現場

～民間と連携した公的施設の有効活用～

東京国立博物館

- 通常開館の他に、プレミアムな解説付き夜間貸切鑑賞等を実施
- ユニークベニューとして企業等へ有料貸出



ユニークベニューとしての活用

これまでの取組から見えてきた課題

公開・開放を拡充する必要性 ～地域に貢献するには、質・量ともに力不足～

- 年間来訪者数が20万人以上のものが25施設、1万人以上のものが200施設。
- 観光資源として地域への誘客、満足度向上に貢献しているものは、まだ少数。

公開・開放の拡充における3つの課題

プロモーション

～観光資源として認識されていない～

- 来訪者が相当数あるものの、観光媒体で取り上げられていない、あるいは、見つけることが困難な公的施設・インフラが多い。
- 8割程度の施設・インフラ※は、観光媒体（じゃらん）の都道府県別の観光スポットランキングの圏外。

※重点施設・インフラ100程度を母数

公開方法

～公開日などが来訪者ニーズにあっていない～

<公的施設に関する口コミ>

- ・休日に見学しようと思い訪れたのですが、なんと土日・祝祭日休館。平日の開館時間も10:00-17:00とおよそ普通の勤め人が行けない時間帯です。（研究所）
- ・残念ながら日曜日だけの開館で、かつ事前申し込みが必要とのことでした。なので門越しの遠望のみです。（自衛隊施設）

コンテンツ

旅行会社ヒアリング、旅行サイト口コミ等から課題を抽出

～専門的で難解、魅力的な展示がなされていない～

<公的施設に関する口コミ>

- ・それなりの知識があれば、それなりに楽しめるが、工学分野に関しては、「それなり」の水準が高いと思っていた方がいい。嘘や方便はないだろうが、説明文書に漢字がとて多くもう少し平易な文章をよう書かんのか？とは思う。（大学）
- ・常設展自体は文字が多く楽しくありません（研究所）
- ・大変面白い展示室ですが、もう少しサービス精神をもって説明やレイアウトをしてほしかったです。例えば、「これが現実の××作戦だ」といった緊迫感のあるコンセプト展示や、逆に小学生にもわかるように徹底的に易しく施設の機能を表現するとか。まだまだ固いですよ～もっと人気ができますよ～ああもったいない!（CIQ施設）
- ・アピールしている食堂の復元室は、多くの資料展示棚が並べられていて、大食堂の雰囲気を感じられなかった。（旧庁舎）

課題への対応① ～基本方針と3つの手法～

基本方針

1. プロモーション、コンテンツ、公開方法について、**来訪者目線で満足度向上を図る**

受入側が見せたいものを見せるだけでなく、来訪者の目線で見せるもの、見せ方を改善して、来訪者の満足度を向上する。

2. これを実現するべく、3つの新しい手法を導入

手法①：民間の活用

来訪者ニーズを把握している民間の視点を活用することで、公的施設・インフラの新たな魅力を引き出すことが出来る。

- 第二海堡において、旅行会社等を招いて現場見学会を実施。
- 「見せる価値が低い」と考えられていた施設・インフラでも、旅行会社の視点では「旅行商品になる」との評価。



旅行会社等と現場見学会 (2018. 3)

手法②：地域との連携

地域と連携した公開・開放により、公的施設・インフラの楽しみ方が広がる。地域全体の魅力向上、活性化にもつながる。

- ダム湖でのボートツーリングをNPO法人最上川リバーツーリズムネットワーク※が運営
- ※最上川沿いの民間団体をつなぎ、地域の活性化に結び付けることを目的に発足した団体

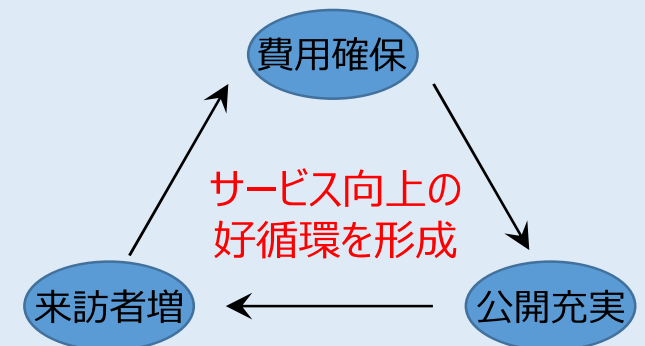


長井ダム

手法③：来訪者の費用負担

有料化することで来訪者が求める特別なサービスを提供することができ、満足度向上につながる。

自立的な拡充サイクル構築



- **初期投資も必要**
安全設備等公開に必要な施設整備については公開に先立ち初期費用を確保する必要

課題への対応②

プロモーション強化・展示改善・公開方法改善に取り組む施設・インフラの一例（観光TFにおける指摘施設等）

海上自衛隊呉地方隊

- 呉には総監部庁舎、艦艇、てつのかじら館等、海上自衛隊の関連施設が集積。
- また、総監部には旧日本海軍地下作戦室が保存。



東京湾アクアライン

- 普段入ることができない管理用の地下通路等、希少性の高い施設がある。



海上自衛隊舞鶴地方隊

- 東郷平八郎が過ごした邸宅である東郷邸や艦艇がある。
- また周囲には、赤レンガ倉庫群がある。



第二海堡

- 明治から大正にかけて、建設された首都東京を防衛するために東京湾口部に建設された海上要塞。
- 砲台跡等、多くの遺構がある。



国立天文台 石垣島天文台

- 九州・沖縄地区の最大口径の望遠鏡や4次元デジタル宇宙シアター等の施設がある。



法務省赤れんが棟

- 建物は、明治時代の建築を復元。
- 法務史料展示室には「司法の近代化」と「建築の近代化」に関する展示がある。



大学

- 大学は歴史・研究成果が充実しており、博物館があるなどポテンシャルが高い。

北大では、研究成果を収めた総合博物館が、イチョウ並木等とともに、地域の観光スポットに。



酒類総合研究所 赤レンガ酒造工場

- 建物は、明治期の貴重な赤煉瓦建築物として国の重要文化財に指定。
- 酒造工場機能がある。



課題への対応③ ～実行推進体制～

本省・現場の現状

- 従来の公開は業務の理解促進などを主目的としており、来訪者目線という発想が乏しく、ノウハウも不足。
- 旅行会社の利益につながることへの抵抗感など、現場も含め考え方が不統一。
- 安全のための手すり、柵などの受入環境が未整備。

本省・現場一体で推進

- 内閣官房、観光庁が中心となって、関係省庁、民間が参加する会議を開催。
- 観光資源としてポテンシャルのある**約100施設**を重点施設・インフラとして選定済。民間と連携しながら、これまで踏み込めなかった高次元の公開・開放の実現に、各府省と現場が一丸となって取り組む。

